

# クラブハウスモデルにおける国際交流の意義と可能性 ～アジアクラブハウス会議（2012年）の取り組みから～

加藤大輔（中部学院大学/日本クラブハウス連合）

河瀬弘之（クラブハウスはばたき）

佐野雅実・松葉昌代（クラブハウス ピアステーションゆう）

平澤恵美（同朋大学/日本クラブハウス連合）

# 1. はじめに

わが国で活動しているクラブハウスは、法制度改革（障害者自立支援法、障害者総合支援法）の影響もあり、地域で活動している他の精神保健福祉関連の施設や事業所と同様に、運営面や活動的な枠組みにおいて厳しい状況に置かれている。この状況を打開するため、2011年6月、わが国で活動する5ヶ所のクラブハウスの連携を促進し、クラブハウスモデルの広報啓発および交流等を積極的に行うために、『日本クラブハウス連合（Japan Clubhouse Coalition）』が結成され、新たな取り組みを展開している。

その1つとして、2012年、6年ぶりに韓国で「アジアクラブハウス会議」が開催され、日本クラブハウス連合を中心にして、わが国のクラブハウス関係者が多数参加した。数日間の会議の中で、アジアの仲間と意義のある時間を過ごし、貴重な情報交換や交流を通して、わが国のクラブハウス関係者ら大きな刺激と日々の活動を充実させるための活力を得ることができた。

本稿では、クラブハウスモデルが実施する国際会議に着目し、その意義や可能性について、2012年に開催された韓国でのアジア会議を軸にしながら整理する。

# 2. クラブハウスの動向

精神障害者リハビリテーションモデルの1つであるクラブハウスモデル（Clubhouse Model）は、1948年にニューヨークで設立された「ファウンテンハウス」を起源としており、2013年4月現在、世界33ヶ国（地域含む）・333ヶ所まで拡大し、世界的な規模で実践されている（図1）。

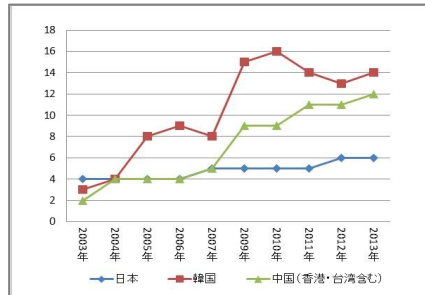
また、クラブハウスモデルは2010年に米国の薬物依存精神保健サービス部において、『根拠に基づいた実践プログラム（The National Registry of Evidence-based Programs and Practices：NREPP）』として認証され、一定の社会的な評価を得たりリハビリテーションモデルとして位置付けられた。



【図1：世界でのクラブハウス実践状況】

わが国におけるクラブハウスモデルの歩みは、1980年代にファウンテンハウスの取り組みが紹介され始め、1992年に東京都板橋区に初めてのクラブハウスが誕生した。その後、奈良県や岐阜県でも活動が始まり、全国的に関心が強まった時期もあるが、現在の実践数は6ヶ所に留まっている。

近年、アジア地域においてクラブハウスモデルの実践数は増加傾向にある（図2）。現在は韓国では14ヶ所、中国本土では5ヶ所（香港、台湾含むと12ヶ所）<sup>[注]</sup>となっており、今後のさらなる成長や発展が期待されている。



【図2：クラブハウス数の日・韓・中の推移】

[注]Clubhouse International発行の「2013 Directory and Resource Guide」より

# 6. アジア会議（韓国大会）における日本クラブハウス連合の挑戦

クラブハウスの国際会議は、クラブハウス単位で参加することが基本的となっている。しかし、今回の韓国大会は、日本のクラブハウス間の連携を強化し、2014年に予定されている日本でのアジア会議開催を見据え、「日本クラブハウス連合」という枠組みを意識しながら各クラブハウスのメンバーやスタッフは参加した。そして、上記の目的を実現するために、以下の3つのことに挑戦した。

①  
日本のクラブハウスの現状等の発表

日本におけるクラブハウスの現状、課題、未来をアジアの仲間と共有する

① 全体会での日本のクラブハウスを取り巻く状況の発表  
② 展示ブースでの資料設置と意見交換



全体会での報告



日本クラブハウス連合展示ブース



展示ブースでの交流

②  
日本語分科会の実施

第4回アジアクラブハウス会議を見据えた予定演習として実施する

① ワーキングチーム結成  
② 分科会テーマ決め  
③ 役割の調整（発表者、進行）  
④ 当日の分科会運営



日本語分科会での発表



分科会での発表



分科会会場

③  
クラブハウスモデルの魅力の共有

クラブハウスモデルに興味を抱いているグループと参加し、実際の場面を通して、その魅力等を感じてもらう

① 展示ブースでの資料配布  
② 日本語分科会での活動報告  
③ 全体会、分科会、懇親会を通してのクラブハウス関係者とのコミュニケーション



日本からの参加グループの展示



懇親会での合唱



韓国クラブハウスの見学

### 3. クラブハウスモデルの理念 「4つの権利」と「国際基準」

クラブハウスモデルが世界各国で取り組まれている背景には様々な要因が考えられるが、クラブハウスが大切にしている『4つの権利』と『国際基準』<sup>[注]</sup>の存在が大きいといえる。

#### 【4つの権利】

いつでも来ることができる、意味のある仕事がある、意味のある人間関係がある、いつでも帰ってくるができる、という地域で生活する人の当たり前の基本的な権利を保障している。

#### 【クラブハウス国際基準】

##### 国際基準（9区分・36項目）

- 区分1：メンバーの資格
- 区分2：メンバーとスタッフの関係
- 区分3：クラブハウスという場所
- 区分4：日中活動
- 区分5：就労
- 区分6：過渡的雇用
- 区分7：教育
- 区分8：クラブハウスの役割
- 区分9：財政、管理、経営



クラブハウス国際基準 日本語リーフレット

これら4つの権利と国際基準の根底には、メンバーとスタッフによる参加と協働のコミュニティづくりや相互支援（パートナーシップ）が強く意識されており、活動する際の基盤となっているため、国、地域、社会・文化的背景が異なっていたとしても共通理念として取り組むことを可能にしているといえる。

[注]国際基準は、「日本クラブハウス連合（<http://www.clubhouse.or.jp/>）」および「クラブハウス インターナショナル（<http://www.iccd.org/>）」のサイトからダウンロード可能

### 4. クラブハウス国際会議

クラブハウスモデルは世界各地で実践されている利点を生かし、定期的に国際会議（世界会議は2年ごと）や国内会議等を実施し（表1）、国内外の仲間と共に、メンバーとスタッフが日々の実践を振り返りながら、有意義な情報交換や国際交流を行う機会が設けられている。

表1：2004年以降の国際会議の実施状況

	アジア会議	世界会議
2004年	第1回大会（香港）	
2005年		第13回大会（フィンランド・ヘルシンキ）
2006年	第2回大会（韓国）	
2007年		第14回大会（米国・ウィスコンシン州・ミルウォーキー）
2008年		
2009年		第15回大会（米国・フロリダ州・セントピーターズバーグ）
2010年		
2011年		第16回大会（スウェーデン・ストックホルム）
2012年	第3回大会（韓国）	
2013年		第17回大会（米国・ミズーリ州・セントルイス）

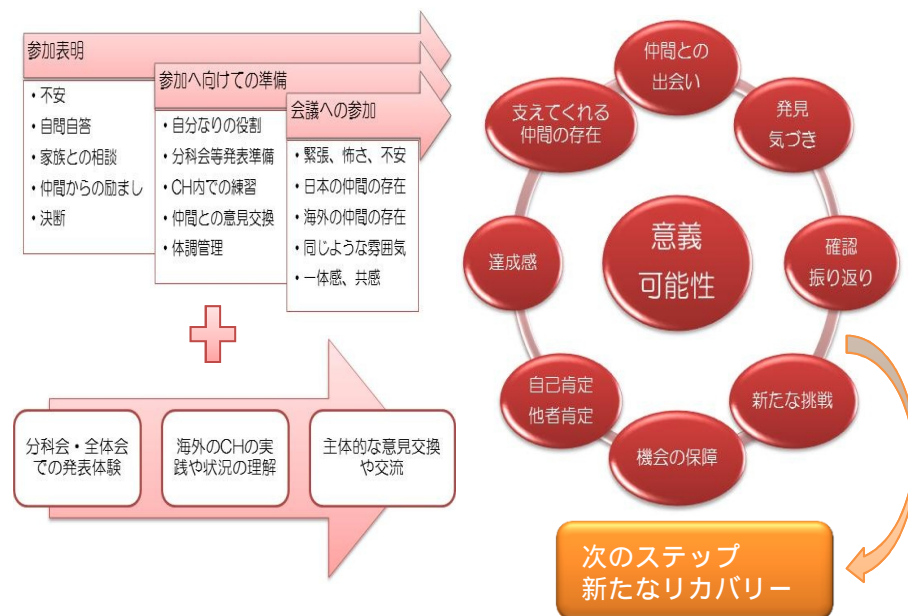
### 7. クラブハウスモデルにおける 国際交流の意義と可能性

アジア会議終了後、参加したメンバー、スタッフ、関係者から会議に参加した感想、その中から得たことなどをまとめたレポートを集めた。ここでは、メンバーの言葉に焦点を当てながら、国際交流の意義と可能性を整理した（図3）。

#### 【メンバーからのコメント（抜粋）】

- ・精神的に辛い状況にあるのは自分だけではないことが分かった。
- ・アジアのクラブハウスのメンバーたちのことを知りたくて参加し、分科会発表等から理解することができた。
- ・自分ひとりだけがしんどいではなく、その状況を乗り越えようとしている仲間が世界にいることを知った。
- ・アジア会議を日本で開催することで、多くのメンバーが勇気や刺激を得ることができると思う。
- ・何か自分をかえたい、少しでも成長させたいという気持ちで分科会で発表をした。
- ・普段は一般就労をしているが、会議参加を通して日常から少し離れたことで頭の中を整理することができ、クラブハウスは絆を大切にしている場所であることを再確認した。
- ・今回は分科会で発表することができなく、海外の仲間とのコミュニケーションは名刺交換が中心となってしまったが、次回は何かしらの発表をしたい。
- ・海外の精神科医療や福祉の実態を理解することができ、自分が置かれている状況と比較することができた。
- ・全体会での発表後、「お疲れ様」と言ってもらい、とても嬉しかった。
- ・会場で応援してくれた仲間だけではなく、日本で見守ってくれたメンバーやスタッフの存在の大きさ、有りがたさを実感した。
- ・海外のクラブハウスの実態を知れたことで、自分たちのクラブハウスの現状と比較することができ、課題解決へ向けたヒントを得ることができた。
- ・これまでのアジア会議で会った仲間と再会することができ、日本以外にも仲間がいることを再確認し、自分一人ぼっちではないことを実感した。

【図3：アジア会議への参加を通じた意識の変化】



## 5. 第3回アジアクラブハウス会議 (韓国・ソウル大会：2012年)

アジア地域で活動しているクラブハウスが集結し、日々の実践報告、交流、情報交換を通して現状を共有し、未来へ向けた希望を分かち合うために、3回アジアクラブハウス会議が韓国のソウル市で開催された。

### 【概要】

- ・期間：2012年10月31日～11月2日
- ・会場：ソウル女性プラザ
- ・主催：テファファウンテンハウス
- ・テーマ：アジアクラブハウス希望のための挑戦と克服
- ・全体参加人数：約270名(表2)
- ・日本からの参加人数：45名(表3)



表2：参加国と人数

日本	45	
韓国	約210	
中国	本土	10
	香港	
	台湾	
アメリカ	1	

表3：日本からの参加者

国内のクラブハウス (6ヶ所)	メンバー	16(8)
	スタッフ	9(5)
	理事	5(1)
精神保健福祉関連施設 (3ヶ所)	メンバー	4(4)
	スタッフ	4(4)
	家族	1(1)
その他	通訳	2(2)
	関係者	4(2)
	合計	45(27)

( )内は初めて国際会議に参加した人数

### 【スケジュールと内容】

会議は全体会と分科会で構成され、メンバーとスタッフが協働して、日々の活動や運営面の工夫、これまでの体験発表や今後の方向性等について発表した(表4・5)。

表4：会議スケジュール

	10月31日	11月1日	11月2日
午前		全体会 「クラブハウス運営の困難さと克服」 分科会(A1-A5)	分科会(C1-C5)
午後	受付 全体会 「アジアでのクラブハウス」	分科会(B1-B6) クラブハウスツアー	全体会 「アジアクラブハウスの希望と未来」
夜	交流会	懇親会	解散

表5：分科会のテーマ

区分	テーマ	備考
A1	クラブハウスに関心あるグループへのアプローチ方法は?	日本語分科会
A2	教 育	
A3	運営委員会の役割	サンマリナー理事発表
A4	ICCD認証の過程とその意義	
A5	クラブハウスでのリーダーシップ	はばたき発表
B1	就労に関するクラブハウスのさまざまな努力	
B2	地域でのクラブハウスモデルの競争力と役割	
B3	メンバーの自覚性はどこから生まれるのか	日本語分科会
B4	仕事中心の日課	
B5	一人暮らしのメンバーへの支援	サン・マリナー発表
B6	テファファウンテンハウス見学	
C1	広報および後援の開発	
C2	新規クラブハウスオープン経験	
C3	クラブハウスでの関係	ゆう発表
C4	クラブハウス間の連携	日本語分科会
C5	メンバーのライフプランとその支援	



参加クラブハウス等のバナー



アジア会議 全体会等の会場

## 8. アジア会議後の新たな一歩 第1回日本クラブハウス会議開催

わが国でクラブハウスモデルの理解を促進させ、またクラブハウスモデルという視点から精神障害者のリハビリテーションや生活支援のあり方を多くの関係者と共有し、次年度に開催予定のアジア会議(日本大会)の予行演習を兼ねて、第1回日本クラブハウス会議が開催された。

表6：日本クラブハウス会議の内容

基調講演	クラブハウスにおけるパートナーシップの魅力と可能性 ～バイオニアクラブハウスでの実践を通して～
全体会	クラブハウスとは何かを語る
全体会	パートナーシップを育てるために
分科会A	日々のユニット活動における工夫
分科会B	見学者(訪問者)に対するオリエンテーション
分科会C	ネットワークづくりへの取り組み
分科会D	働くことへの挑戦

### 【概要】

- ・期間：2013年9月21日～22日
- ・会場：明治学院大学 白金キャンパス
- ・主催：日本クラブハウス連合
- ・テーマ：パートナーシップで挑戦しよう
- ・参加人数：約150名
- ・内容：基調講演、全体会、分科会(表6)

### 【成果と課題】

韓国大会に参加したメンバーとスタッフが中心となって実行委員に携わり、企画、運営、進行に積極的に関わった。全体会や分科会の企画、運営、進行の難しさを実感し、次年度へ向けた課題(時間配分、言語的なサポート、マンパワー不足)が浮き彫りになった。クラブハウスのイベントに初めて参加するメンバーも多数おり、新たな一歩を踏み出す機会となった。クラブハウス関係者以外の参加もあり、クラブハウスモデルの広報啓発および新たなネットワークの構築につながった。



開会式



展示ブース



全体会



参加グループのバナー



ポスター

## 9. おわりに

クラブハウスでは国際会議という日常とは異なる機会が定期的に提供されている。これらに参加することで、メンバーとスタッフは相互の可能性を新たに見だし、お互いの力強さを確認する。また、分科会等で発表する経験を通して、原稿の準備、クラブハウス内でのリハースル・意見交換、内容の修正等を行いながらクラブハウスが一体となり、メンバーとスタッフがパートナーシップを形成するプロセスを経験していく。これは“クラブハウスモデル”という共通の理念や哲学をメンバーとスタッフが意識するからこそ成立するものであり、そこにクラブハウスモデルの魅力や可能性があるといえる。

2014年9月頃、第4回アジアクラブハウス会議が日本(東京)で開催される。アジア会議(韓国大会)と日本クラブハウス会議の経験をメンバーとスタッフが活かし、意義のあるアジア会議を実現させたい。



会議終了後の集合写真